木の大学特別講座2018受講案内

■科目と注目される内容

「フレーミングを総合的にとらえる」

私たちの暮らしは、建築からファーニッシングまで「人も物品も木材に囲まれて安全に居住し、収納保存」されています。
「額装」を切り口とした美術品の保存に関わる技術は、工房においても活用できるコアテクノロジーです。
額装の主材である「木の内科」の重要性は美術品の額装にとどまらず、建装「フレーミング」に共通する構造的なアプローチからの技法の獲得は新たなビジネスに結びつく知見が得られるでしょう。仕事を拡げ、専門性を高めます。

工藤額装工房の先進的取り組み

昨年の講座 MoMA ニューヨーク近代美術館コンサーバター（修複師）Roger griffith氏によるレクチャー「保存修復の現場から」に引き続き、本年は受講者のお一人で絵画保存額装のプロフェッショナル、工藤正明氏に関連講義をお願いすることといたしました。
講座後のイクスカーションでは、上田市立美術館収蔵作品の保存額装解説と工藤額装工房の現場を見学訪問して、ニューヨークからの建築ジャーナリスト、美術関係編集者の受講同行参加メンバー全員が初見で高い専門性に刮目。とても興味深い内容でした。
工藤正明氏は、保存額装の世界では第一人者であり、誠実かつ丁寧な仕事で高い評価と豊富なキャリアに裏付けられた先端技能を保持されています。
絵画額装業界は、重要美術品の移動・所有と一体のものであるため、その修複の取り扱いはセキュリティ上オープンにされない性格があります。長年の蓄積と先駆的なノウハウは、美術品や文化財の保存・修複技術の向上発展のためにも、コモンセンスとして共有できることが望ましく、リーディングスキルとして国際的にも求められ注目されています。

額装の新次元

額縁を「フレーミング」としてとらえると、窓枠・サッシ・建具・家具、及び箱計装とも共通した構造要素があり、室内建築、展示装飾の歴史と深い結びつきがあります。美術品の保存修復や収蔵環境にいたるまで木材が多用されており、トレーサビリティや素材管理など作品に密着した連続作業になります。
額装の歴史、基本構造ジョイントも明らかにしたいと思います。

この一体性を重視して、これからの木の科学的高度利用・インテリジェントワークの一つとして特別講座科目に選びました。
本講座では、保存額装用マテリアルとして重要な木材の抗菌・抗体作用について「木の内科研究」から阿部藏之が補強し、現在まで明らかになってきた抗菌耐性、ガード・プロテクト作用について総合的な知見を実物サンプルとともに解説・補佐をいたします。